

スチュワードシップ活動の概況と自己評価

ピクテ投信投資顧問株式会社（以下、当社）は、スチュワードシップ責任を果たし、投資先企業の企業価値向上に主体的に取り組むことで、顧客および受益者のみなさまの投資リターンを高めることを目指しております。ここでは2020年7月から2021年6月までの期間におけるスチュワードシップ活動について、当社の取組みのご紹介と自己評価をおこないましたので、ここにご報告させていただきます。

（項目）

1. 議決権行使について
2. エンゲージメントの取組みについて
3. 「日本版スチュワードシップ・コード」各原則の実施状況に関する自己評価
4. 投資政策委員会によるエンゲージメント活動への評価・提言と対応について

1. 議決権行使について

2020年7月～2021年6月末までに開催された投資先国内企業の株主総会において、下記のとおり議決権を行使しております。

1-1. 会社提案議案に対する賛成・反対・棄権・白紙委任の議案件数

| 会社提案議案 | | 賛成 | 反対 | 棄権 | 白紙委任 | 合計 | 反対比率 |
|-----------------------------|-------------------|-------|----|----|------|-------|-------|
| 会社機関に関する議案 | 取締役の選解任 | 997 | 26 | 3 | 0 | 1026 | 2.5% |
| | 監査役の選解任 | 82 | 11 | 0 | 0 | 93 | 11.8% |
| | 会計監査人の選解任 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.0% |
| 役員報酬に関する議案 | 役員報酬(※1) | 63 | 4 | 0 | 0 | 67 | 6.0% |
| | 退任役員の退職慰労金の支給 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0% |
| 資本政策に関する議案 (定款に関する議案を除く) | 剰余金の処分 | 69 | 0 | 0 | 0 | 69 | 0.0% |
| | 組織再編関連(※2) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0% |
| | 買収防衛策の導入・更新・廃止 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0% |
| | その他資本政策に関する議案(※3) | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0.0% |
| 定款に関する議案 | | 24 | 1 | 0 | 0 | 25 | 4.0% |
| その他の議案 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0% |
| 合計 | | 1,240 | 42 | 3 | - | 1,285 | 3.3% |

(※1) 役員報酬額改定、ストックオプション発行、業績連動型報酬制度の導入・改訂、役員賞与等

(※2) 合併、営業譲渡・譲受、株式交換、株式移転、会社分割等

(※3) 自己株式取得、法定準備金減少、第三者割当増資、資本減少、株式併合、種類株式の発行等

1-2. 株主提出議案に対する賛成・反対・棄権・白紙委任の議案件数

| 株主提案議案 | 賛成 | 反対 | 棄権 | 白紙委任 | 合計 | 反対比率 |
|--------|----|----|----|------|----|-------|
| 合計 | 2 | 5 | - | - | 7 | 71.4% |

1-3. 議決権行使結果の概況

議決権行使にあたっては、自社で策定した「議決権行使に関する方針」に基づいて実施しております。2020年7月～2021年6月末までに開催された株主総会において、会社提案議案1,285件に対し、賛成1,240件、反対42件、棄権3件の行使を行い、反対比率は3.3%となりました。また、株主提出議案7件に対し、賛成2件、反対5件の行使を行い、反対比率は71.4%となりました。

会社提案議案に対する主な反対議案は以下のとおりです。

- ・取締役の選解任：① 社外取締役の独立性について懸念のある事案について反対、② 代表権のある取締役の選任議案について、株主総会後との取締役会に女性が含まれない事案について反対
- ・監査役の選解任：社外監査役の独立性について懸念のある事案について反対
- ・役員報酬：希薄化について当社基準を超えている、または行使条件について当社基準に合わない事案について反対

なお、今年度は代表権のある取締役の選任議案に関し、株主総会後の取締役会に女性が含まれない場合、TOPIX500に含まれない企業に対してのみ棄権としております。

2. エンゲージメントの取り組みについて

当社では運用担当者による調査活動・分析を通じて投資先企業について理解を深めたいと、持続的な企業価値向上に資することを目的にエンゲージメントを行っております。対話を通じて企業と認識の共有に努め、必要に応じて提言を行います。その内容は企業ごとに異なり、コーポレートガバナンス、経営戦略、資本政策など多岐にわたります。

ここでは、投資先企業のマネジメント等との間で行われたエンゲージメントについて、具体例をご紹介します。（昨年度掲載のA-D社とは別個の企業になります）

A社（日用品メーカー）

企業価値を考えるにあたり、競争力を高め収益性を改善する余地があり、特に新型コロナウイルス感染で大きく変化した事業環境への対応と、新中計の成長戦略の一つである新規事業に焦点を当てて議論しました。主力日用品ではコスト効率化による収益性改善について問題提起しました。商品戦略の見直しや構造改革による事業改革の方向性は評価できる一方、意思決定のスピード感には改善余地があると考えています。新規事業については収益性が必ずしも明らかではないものの、弊社では同社が持つ技術・資産を従来以上に活用できる可能性があると考えています。今後も資本効率の改善を伴った収益性改善に向けて対話を続けていく方針です。

B 社（計測機器メーカー）

「科学技術で社会に貢献する」という社是が ESG の環境面にどのように貢献し、企業価値の最大化につながるかの道筋が重要と認識しています。その第一歩として、主力の計測機器事業の収益力強化が不可欠という視点でこれまで問題提起してきました。今年発表された新中計では重点研究分野としてカーボンニュートラルが加わったほか、主力の計測・分析機器については収益性向上施策も発表され、評価できる内容であったと考えています。今後は同計画の実効性を検証し、サステナビリティという観点から、経営資源の有効活用、収益性向上を中心に引き続き対話を続けていく方針です。

C 社（資源金属業）

環境面からみた事業のサステナビリティについて議論しました。アップデートされた環境関連の新計画はより厳しい基準に基づいており評価できますが、マネジメントのインセンティブ体系や執行プロセスの開示が不十分と問題提起しました。特に報酬体制に環境項目が明確に反映されていない点を議論しました。環境目標としては、スコープ 3 基準を用いてサプライチェーンとして社会貢献の向上余地があるとお伝えしました。また、ガバナンス項目として買収防衛策の撤廃も提案いたしました。会社側からは今後サプライヤーから詳細な環境データを提供してもらうとの回答があり、今後の進展が期待されます。

D 社（自動車部品メーカー）

コーポレートガバナンスの実効性を議論いたしました。同社のコーポレートガバナンスの改善に取り組み評価はできるものの、グループ企業との株式持合い考えると、改訂版ガバナンスコードを満たすだけでなく、更なる独立性の確保から社外役員や報酬・指名委員会は独立していることが望ましいとの考えを伝えました。また政策保有株式についても段階的削減を提案いたしました。その後持ち合い株式についてはグループ企業も含め一部売却が発表されたほか、委員会については過半のメンバーが独立役員となるなど具体的な進展があったと評価しています。

3. 「日本版スチュワードシップ・コード」各原則の実施状況に関する自己評価

（原則 1）

機関投資家は、スチュワードシップ責任を果たすための明確な方針を策定し、これを公表すべきである。

当社は、機関投資家としての受託者責任を果たすべく、平成 26 年に「「責任ある機関投資家」の諸原則 <<日本版スチュワードシップコード>>」（以下、日本版スチュワードシップコード）への受け入れを表明し、その後平成 29 年 5 月に公表された「日本版スチュワードシップコード」（改訂版）にも準拠しつつスチュワードシップ活動に取り組んでまいりました。

最新のものである 2020 年 3 月公表「日本版スチュワードシップコード」（改訂版）の趣旨に基づいた取り組み方針をホームページ上で公表しております。

(原則 2)

機関投資家は、スチュワードシップ責任を果たす上で管理すべき利益相反について、明確な方針を策定し、これを公表すべきである。

当社は、日本版スチュワードシップ・コードの改訂を受け、「日本版スチュワードシップ・コード」への取組み方針を改訂し、議決権行使において利益相反の生じ得る局面の特定や、利益相反管理のためのガバナンス体制の整備をおこないホームページ上で公表しております。また、顧客利益を最優先した議決権行使と適切な利益相反管理をおこなうため、「議決権行使に関する方針」を改訂しホームページ上で公表しております。

本期間（2020年7月～2021年6月）において、法務コンプライアンス部では、当社の議決権行使は、当社の「議決権行使に関する方針」および「顧客ガイドライン」に従い適切に行われていることを確認いたしました。

また、その確認結果に基づき運用リスク管理委員会が評価を行い、その評価結果を経営会議に報告しました。上記の取組みにより、スチュワードシップ責任を果たす上での適切な利益相反管理がなされていると考えております。

(原則 3)

機関投資家は、投資先企業の持続的成長に向けてスチュワードシップ責任を適切に果たすため、当該企業の状況を的確に把握すべきである。

当社はリサーチ活動を通じて当該企業への理解を深めることがスチュワードシップ活動の質を高めると考えています。手段として、決算説明会など企業による発信情報の分析はもちろん、マネジメント、IR担当者とのミーティングや、工場見学や識者との対話などを通じて積極的に情報収集・分析することを心がけています。特に、ひとつのチームとしてロンドンと東京にまたがって活動している特徴を最大限に活かし、多面的な視点でリサーチ活動を行うことができたと考えております。本年度はコロナ禍によりリサーチ活動がオンラインミーティングに限定されましたが、チームの取り組みとしてESGを含め多面的な視点からのミーティングを心がけました。

(原則 4)

機関投資家は、投資先企業との建設的な「目的を持った対話」を通じて、投資先企業との認識の共有を図るとともに、問題の改善に努めるべきである。

各企業を担当するアナリストが持続的な企業価値向上を念頭に企業ごとに対話内容を選定し、その企業のビジネスモデルやステージに応じた議論を行うことで、数字ありきではない議論を心がけております。本年度はESGを分析するフレームワークをもとにしたエンゲージメントへの取り組みを強化しております。またジュネーブ本社にあるピクテのESGチームとも連携し、グローバルでESG投資に関する知見を共有するとともに、体系だったエンゲージメント手法の構築にも取り組んでおります。

ピクテグループではエンゲージメント・プログラムを以下の4つの階層で行っております。(1) ターゲット・エンゲージメント：ESGに関連する問題が深刻である一方、影響力が高いと考えられる企業(30

社程度を上限)を対象(2)共同イニシアティブ:国連責任投資原則(PRI)と気候変動対応を企業に求める世界機関投資家団体が発足させた「クライメット・アクション100+」他への参加、(3)エンゲージメント・サービス機関(サステイナリティクス)の活用、(4)個別銘柄の調査・分析プロセスにおける経営陣との対話。詳細につきましてはActive ownership Report 2020, Pictet Asset Managementをご参照ください。

集团的エンゲージメントについて、当社では必要に応じて例外的に参加するとしておりますが、当該報告期間では参加しておりません。また当社は投資先企業との対話において未公表の重要事実の受領はしないこととしており、本年度もそのような事実はございませんでした。

(原則5)

機関投資家は、議決権の行使と行使結果の公表について明確な方針を持つとともに、議決権行使の方針については、単に形式的な判断基準にとどまるのではなく、投資先企業の持続的成長に資するものとなるように工夫すべきである。

自社で策定した「議決権行使に関する方針」に基づき、ピクテグループで統一した手続きにのっとり議決権行使を行っております。行使結果についてはホームページにおいて公表しております。本年度分(2020年7月から2021年6月まで)についてはホームページのほか、前掲「1. 議決権行使について」も合わせてご参照ください。

(原則6)

機関投資家は、議決権の行使も含め、スチュワードシップ責任をどのように果たしているのかについて、原則として、顧客・受益者に対して定期的に報告を行うべきである。

議決権行使結果についてホームページ上で個別に開示しているほか、前掲「1. 議決権行使について」で2020年7月から2021年6月分について報告しております。当社のスチュワードシップ活動の概況については前掲「2.エンゲージメントの取組みについて」のなかで紹介しておりますのでご参照ください。

(原則7)

機関投資家は、投資先企業の持続的成長に資するよう、投資先企業やその事業環境等に関する深い理解のほか運用戦略に応じたサステイナビリティの考慮に基づき、当該企業との対話やスチュワードシップ活動に伴う判断を適切に行うための実力を備えるべきである。

日本株チームではサステイナビリティを考慮した統一されたフォーマットを用いてエンゲージメント活動を行っております。またピクテ全体としても、適切なスチュワードシップ活動が行われているか、社内で評価する仕組みを構築しております。本年度分については「3. 「日本版スチュワードシップ・コード」各原則の実施状況に関する自己評価」および、「4. 投資政策委員会によるエンゲージメント活動への評価・提言と対応について」をご覧ください。

またグループとしてジュネーブにESG専門部署を設置するなどピクテは責任投資への取組みを強化しており、その知見をリサーチ活動やスチュワードシップ活動に取り入れるよう努めています。

(原則 8)

機関投資家向けサービス提供者は、機関投資家がスチュワードシップ責任を果たすに当たり、適切にサービスを提供し、インベストメント・チェーン全体の機能向上に資するものとなるよう努めるべきである。

当社は本原則の対象外であり、自己評価は割愛いたします。

4. 投資政策委員会によるエンゲージメント活動への評価・提言と対応について

当社では運用部署から独立した投資政策委員会において、議決権行使状況やエンゲージメントの実施状況などスチュワードシップ活動全体について年次評価を行っております。今回は2020年7月から2021年6月に行われた当社のスチュワードシップ活動に関して評価が行われ、その活動内容が概ね満足できるものであったとして経営会議に報告されております。